

平成22年8月期 第1四半期決算短信

平成22年1月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 鉄人化計画
 コード番号 2404 URL <http://www.tetsuiin.ne.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成22年1月13日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 日野 洋一
 (氏名) 浦野 敏男

TEL 03-5773-9184

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年8月期第1四半期の連結業績(平成21年9月1日～平成21年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年8月期第1四半期	1,585	△3.5	△47	—	△49	—	△41	—
21年8月期第1四半期	1,643	—	△64	—	△84	—	△77	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年8月期第1四半期	△1,284.37	—
21年8月期第1四半期	△2,353.15	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年8月期第1四半期	5,975	1,625	27.1	50,961.10
21年8月期	6,265	1,691	27.0	52,624.54

(参考) 自己資本 22年8月期第1四半期 1,620百万円 21年8月期 1,689百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年8月期	—	500.00	—	500.00	1,000.00
22年8月期	—	—	—	—	—
22年8月期(予想)	—	500.00	—	500.00	1,000.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年8月期の連結業績予想(平成21年9月1日～平成22年8月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期	3,649	0.9	216	△4.2	179	△6.0	42	△42.7	1,333.83
連結累計期間	7,298	3.2	484	19.5	409	17.2	140	13.9	4,373.50

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年8月期第1四半期 33,068株 21年8月期 33,068株

② 期末自己株式数 22年8月期第1四半期 1,261株 21年8月期 958株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年8月期第1四半期 32,052株 21年8月期第1四半期 32,962株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

業績予想の前提となる条件等については、5ページ【定性的情報・財務諸表等】3.連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、世界的な金融危機の影響による国内景気の深刻な悪化状況から緩やかながら回復基調にあるものの、自立性に乏しく、依然として企業収益は減少傾向にあり、厳しい雇用環境においてデフレ傾向が鮮明になりつつあります。

当社グループが主力事業を展開するカラオケルーム業界におきましては、2008年のカラオケ参加人口が約4,430万人（レジャー白書2009）と推測され2.8%程度の微増となっておりますが、雇用・所得環境の悪化に伴う外食機会の減少（2次会利用の減少）や新型インフルエンザの影響もあり足下での需要は低迷傾向にあります。

こうした状況の下、各カラオケチェーン店は、飲食店との複合型店舗の推進や飲食メニューの充実、低価格戦略への一時的な切替え、郊外型店舗から都市部駅前型店舗への出店戦略の変更など、集客に向けた施策を積極的に図っております。また、引続き、社員教育による人的サービスの向上や効率的な店舗運営を図るなど景気の影響に配慮した取組みを行っております。

フルサービス型珈琲ショップを運営する喫茶業界におきましては、運営する形態により珈琲ショップと喫茶店・珈琲専門店に分類され、その市場規模は2008年において約1兆132億円（外食産業統計資料集）で前年比4.4%減と推測されております。なお、フルサービス型の喫茶店・珈琲専門店は、店舗数・市場規模で同業界全体の大部分を占めておりますが、いずれも長期的に減少傾向にあります。

その他、ビリヤード・ダーツ業界では、新たに通信対戦型のデジタルダーツ遊技機のサービスが開始されました。複合カフェ業界では、市場が飽和状態にあり、引続き競合関係が激化しております。

このような経済情勢及び業界動向にあつて、当社グループは、主力事業であるカラオケルーム運営事業に集中的に経営資源を投入し、店舗数の拡大を積極的に推進する為、不動産開発体制を強化するとともに、人的資源の育成と新卒の採用枠の拡大に取組みました。また、前期に開始した「新会員システム」の操作性の向上や新サービスの開発に取組みました。

当第1四半期連結会計期間の業績は、売上高1,585百万円（前年同四半期比3.5%減）、経常損失49百万円（前年同四半期経常損失84百万円）、四半期純損失41百万円（前年同四半期純損失77百万円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

なお、以下の売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

また、前連結会計年度まで区分表示しておりました「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」及び「まんが喫茶（複合カフェ）運営事業」並びに「音響設備販売事業」、「音源販売事業」は、金額的重要性及び事業領域の統合を考慮し、当第1四半期連結会計期間より「その他の事業」に含めることといたしました。そのため、前年同四半期の数値を変更後の事業区分に組み替えて、前年同四半期との比較を行っております。

（カラオケルーム運営事業）

当事業におきましては、長期化する景気悪化により需要が逡減しておりますが、前期の新店が相当程度貢献した為、比較的健闘した業績となりました。

出店計画におきましては、ミニ鉄人システムを設備した駅前型カラオケ店舗1店の新規出店を実施し、当第1四半期連結会計期間末の直営店は39店舗となりました。また、不動産開発体制を強化したことにより第2四半期に出店予定の2店舗の新店物件を確保しました。

店舗運営におきましては、景気の影響に配慮して、引続き、独自のQMSC運動（Qクオリティ&Mメンテナンス：設備の品質、Sサービス：おもてなし、Cクレンリネス：清潔な環境）を実施し、顧客満足度を図るべくお客様の目線に立ったサービスの向上に取組むとともに、安全性と店内環境の改善を考慮したフライヤーレス化やIH（電磁誘導加熱）化の推進に取組みました。なお、比較可能な既存店※の売上高は、一部の地域における低価格志向と競合激化が影響し、前年同四半期比89.3%と苦戦いたしました。前期より開始いたしました「新会員システム」の平成21年11月30日現在での登録会員数は34万人となっており、当該会員数は順調に増加しております。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間における売上高は1,252百万円（前年同四半期比5.5%増）、営業利益は90百万円（同11.1%増）となりました。

※比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。以下、同様。

（フルサービス型珈琲ショップ運営事業）

当事業におきましては、新型インフルエンザの影響も軽減され前期並みの業績となりました。からふね屋珈琲店・本店におけるパフェメニューは210種類を超え、更にバラエティ豊かな内容となっております。

店舗運営におきましては、本店の業績向上を図る取組みとして、「からふね屋珈琲店ブランド」の広報と店舗オペレーションの生産性向上を図る目的で本店人員体制を強化いたしました。

また、大型商業施設のリニューアルに合わせて1店舗をリニューアルするとともに、パフェメニューの販売（30種類程度）を開始いたしました。

なお、比較可能な既存店の売上高は、前年同期比99.3%となりました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間における売上高は161百万円（前年同四半期比0.7%減）、営業利益は0.9百万円（同35.5%増）となりました。

（その他の事業）

その他の事業の業績概要は、以下のとおりです。

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業におきましては、デジタルダーツ機の新機種への入替えを完了し、サービスを開始いたしました。

複合カフェ運営事業におきましては、オンラインゲームのタイトル数を大幅に増加させる取組みを引続き推進いたしました。

音響設備販売事業におきましては、カラオケ機器及び周辺機器の販売並びに同機器のメンテナンス業務を行ないました。

音源販売事業におきましては、携帯電話用コンテンツプロバイダ向けの着信メロディ・着うた[®]音源の制作及び販売とコンテンツ配信ASPサービス※や商業サイト向け着信メロディ、着うた[®]等の供給サービスの拡販に取組みました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間における売上高は227百万円（前年同四半期比46.4%減）、営業損失は0.4百万円（前年同四半期営業利益44百万円）となりました。

※「着うた[®]」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標であります。

※ASPサービスとは、インターネットを利用して、業務用アプリケーションソフトを顧客にレンタルするサービスをいいます。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 財政状態の変動状況

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における、資産の合計は、5,975百万円となり、前連結会計年度末に比較して290百万円減少いたしました。

流動資産は、1,600百万円となり、同375百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少455百万円によるものであります。固定資産は、4,375百万円となり、同85百万円増加いたしました。主な要因は、カラオケ店舗の新店による店舗設備及び差入保証金の増加によるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における、負債の合計は、4,350百万円となり、前連結会計年度末に比較して223百万円減少いたしました。主な要因は、長期・短期借入金の減少200百万円及び社債の増加70百万円と未払法人税等の減少84百万円によるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における、純資産の合計は、1,625百万円となり、前連結会計年度末に比較して66百万円減少いたしました。主な要因は、利益剰余金の減少57百万円と自己株式の取得による減少11百万円によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比較して435百万円（前年同四半期は235百万円の増加）減少し、1,080百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果減少した資金は、71百万円（前年同四半期比68.5%減）となりました。これは主に減価償却費83百万円の増加要因があったものの、税金等調整前四半期純損失50百万円及び法人税等の支払額93百万円等の減少要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、199百万円（前年同四半期比31.9%減）となりました。これは主に新規出店等に伴う有形固定資産の取得135百万円及び店舗入居保証金の差入れによる支出91百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、165百万円（前年同四半期は753百万円の増加）となりました。これは主に長期借入による200百万円の資金調達を行った一方で、長期借入金の返済375百万円を行ったことによるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。カラオケルーム運営事業は、忘年会等が行われる時期を含む第2四半期と歓送迎会等が行われる時期を含む第3四半期に売上が偏重する傾向があるため、各四半期の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。

また、企業収益の悪化が続く状況下において、雇用者所得は当分低水準で推移するものと見込まれ、消費者マインドが一層冷え込むなどデフレ基調が進んでいることからレジャー施設への集客が大幅に減少するなど当社グループの営業努力で解決できない事態となった場合には、業績が影響を受ける可能性があります。

以上のことを踏まえて、平成22年8月期の業績予想については、以下のとおりです。

カラオケルーム運営事業におきましては、雇用者所得の減少による節約志向により引続き需要が低迷することが予想されますが、前期新店が好調に業績を上げている為、概ね予定通りの業績推移を見込んでおります。

フルサービス型珈琲ショップ運営事業におきましては、概ね計画どおりの業績推移が見込まれます。

その他の事業におきましては、景気悪化による影響をある程度取り込んだ見込みで計画されております。

以上の状況により、現時点における当期の業績見通しは、平成21年10月7日に公表いたしました平成22年8月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

※ 当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基き当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

・一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

・固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年11月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,128,679	1,584,602
受取手形及び売掛金	68,948	65,227
商品及び製品	9,814	8,391
仕掛品	2,718	2,515
原材料及び貯蔵品	63,869	49,411
その他	326,791	266,446
貸倒引当金	△109	△281
流動資産合計	1,600,713	1,976,312
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,053,335	2,025,286
工具、器具及び備品（純額）	263,533	265,136
その他（純額）	308,101	305,744
有形固定資産合計	2,624,970	2,596,168
無形固定資産		
のれん	328,732	342,204
その他	64,718	70,251
無形固定資産合計	393,451	412,456
投資その他の資産		
差入保証金	1,168,205	1,093,397
その他	189,254	188,400
貸倒引当金	△814	△835
投資その他の資産合計	1,356,645	1,280,962
固定資産合計	4,375,066	4,289,587
資産合計	5,975,779	6,265,899

(単位:千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年11月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	144,250	146,593
短期借入金	50,000	75,000
1年内返済予定の長期借入金	1,443,065	1,515,662
1年内償還予定の社債	180,000	160,000
未払費用	361,071	328,175
未払法人税等	19,537	103,710
賞与引当金	7,681	7,464
その他	124,015	152,248
流動負債合計	2,329,622	2,488,853
固定負債		
社債	550,000	500,000
長期借入金	1,321,722	1,424,461
その他	149,145	160,900
固定負債合計	2,020,867	2,085,361
負債合計	4,350,490	4,574,214
純資産の部		
株主資本		
資本金	732,394	732,394
資本剰余金	725,552	725,552
利益剰余金	206,050	263,272
自己株式	△44,006	△32,334
株主資本合計	1,619,990	1,688,884
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	929	889
評価・換算差額等合計	929	889
新株予約権	4,369	1,910
純資産合計	1,625,289	1,691,685
負債純資産合計	5,975,779	6,265,899

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成20年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年9月1日 至平成21年11月30日)
売上高	1,643,287	1,585,151
売上原価	1,440,545	1,385,069
売上総利益	202,742	200,082
販売費及び一般管理費	267,346	248,003
営業損失(△)	△64,604	△47,921
営業外収益		
受取利息	334	92
協賛金収入	5,537	3,584
設備賃貸料	2,434	2,434
保険解約返戻金	—	13,776
その他	4,545	4,294
営業外収益合計	12,852	24,181
営業外費用		
支払利息	17,450	18,685
社債発行費	7,774	1,909
支払手数料	5,592	4,280
その他	1,806	745
営業外費用合計	32,624	25,621
経常損失(△)	△84,375	△49,360
特別利益		
固定資産売却益	3,744	1,159
特別利益合計	3,744	1,159
特別損失		
固定資産除却損	7,144	2,448
その他	2,028	—
特別損失合計	9,172	2,448
税金等調整前四半期純損失(△)	△89,803	△50,648
法人税、住民税及び事業税	30,071	14,833
法人税等調整額	△42,310	△24,315
法人税等合計	△12,239	△9,482
四半期純損失(△)	△77,564	△41,166

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成20年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年9月1日 至平成21年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△89,803	△50,648
減価償却費	89,466	83,412
のれん償却額	13,001	13,001
株式報酬費用	—	2,458
長期前払費用償却額	9,225	6,862
貸倒引当金の増減額(△は減少)	895	△193
受取利息及び受取配当金	△334	△92
支払利息及び社債利息	17,450	18,685
社債発行費	7,774	1,909
有形固定資産売却損益(△は益)	△3,744	△1,159
固定資産除却損	7,144	2,448
売上債権の増減額(△は増加)	△97,139	△3,222
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,759	△16,085
仕入債務の増減額(△は減少)	23,066	27,106
その他	△36,125	△46,647
小計	△57,363	37,835
利息及び配当金の受取額	334	92
利息の支払額	△15,389	△15,390
法人税等の支払額	△152,917	△93,543
営業活動によるキャッシュ・フロー	△225,335	△71,006
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△224,439	△135,206
有形固定資産の売却による収入	4,761	4,362
無形固定資産の取得による支出	△11,402	△168
差入保証金の差入による支出	△60,833	△91,313
差入保証金の回収による収入	525	3,651
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△1,021	19,550
投資活動によるキャッシュ・フロー	△292,410	△199,124
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△33,337	△25,000
長期借入れによる収入	894,950	200,000
長期借入金の返済による支出	△340,544	△375,336
社債の発行による収入	292,225	98,090
社債の償還による支出	△30,000	△30,000
リース債務の返済による支出	△2,393	△10,876
自己株式の取得による支出	△12,149	△11,672
配当金の支払額	△15,716	△10,936
財務活動によるキャッシュ・フロー	753,034	△165,730
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	235,288	△435,862
現金及び現金同等物の期首残高	760,810	1,516,221
現金及び現金同等物の四半期末残高	996,098	1,080,358

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期連結会計期間(自平成21年9月1日至平成21年11月30日)
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結会計期間(自平成21年9月1日至平成21年11月30日)
該当事項はありません。

6. その他の情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比 (%)
その他の事業	26,153	△ 83.4
合計	26,153	△ 83.4

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 前連結会計年度まで区分表示しておりました「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」及び「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」並びに「音響設備販売事業」、「音源販売事業」は、当第1四半期連結会計期間より「その他の事業」に含めることといたしました。そのため、前年同四半期の数値を変更後の事業区分に組み替えて、前年同四半期との比較を行っております。

② 受注状況

当第1四半期連結会計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
その他の事業	16,568	△ 87.0	12,572	△ 70.2
合計	16,568	△ 87.0	12,572	△ 70.2

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 前連結会計年度まで区分表示しておりました「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」及び「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」並びに「音響設備販売事業」、「音源販売事業」は、当第1四半期連結会計期間より「その他の事業」に含めることといたしました。そのため、前年同四半期の数値を変更後の事業区分に組み替えて、前年同四半期との比較を行っております。

③ 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比 (%)
カラオケルーム運営事業	1,252,132	5.5
フルサービス型珈琲ショップ運営事業	156,850	△ 3.5
その他の事業	176,168	△ 40.0
合計	1,585,151	△ 3.5

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 前連結会計年度まで区分表示しておりました「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」及び「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」並びに「音響設備販売事業」、「音源販売事業」は、当第1四半期連結会計期間より「その他の事業」に含めることといたしました。そのため、前年同四半期の数値を変更後の事業区分に組み替えて、前年同四半期との比較を行っております。